



## 中部ブロック



発行人：伴 信太郎  
 事務局 〒466-8560 名古屋市昭和区鶴舞町 65  
 名古屋大学大学院医学系研究科健康社会医学専攻  
 総合診療医学 内  
 Tel.052-744-2951 Fax. 052-744-2951  
 E-mail:nobuban(at)med.nagoya-u.ac.jp

ニュースレター No.21(2018.03) 本号の編集担当者 森田 浩之

### 【支部情報】

#### 『中部ブロックポर्टフォリオ発表会・男女共同参画企画』

日時:2018年3月17日(土)13:30~16:30 場所:名古屋大学医学部 鶴友会館

#### 『新専攻医オリエンテーション』

日時:2018年4月29日(祝) ※時間・場所 未定

### ●東海家庭医療ネットワーク

2006年から続くこのカンファレンスも、2018年2月10日に記念すべき第30回を迎えました。カンファレンスの内容は毎回非常に悩むのですが、毎月幹事たちで話し合っており、とても興味深いものになります。

今回は家庭医療ならではの領域を勉強したいとの声に応え、「家族志向のケア」についてネットワーク代表の田中がワークショップを行いました。システム理論の概説から始まり、家族の中のシステムについて、体を使って楽しく学びました。

また、前回から専門医との交流を主眼とした「専門医と語るプライマリ・ケア」を行っています。この企画はシリーズ化してほしいと好評です。今回は泌尿器科専門医の岡裕也先生(揖斐川町春日診療所所長)に、診療所でよく出会う頻尿のお話をさせていただきました。生理学、解剖学、薬理学など、基礎医学から丁寧に解説いただき、下部尿路症状、過活動膀胱、前立腺肥大症、夜間頻尿についての知識をすっきりと整理できました。懇親会も非常に盛り上がり、今回もとても楽しいカンファレンスでした。

来年度も2回ほどカンファレンスを計画しています。参加は自由ですので、どうぞ皆さんもご参加ください!

文責:(代表)田中久也

### ●愛知県

#### 【報告】

##### 1)2018年1月13日(土)14:00-18:00『ACCEL 2018 冬』

場所:名古屋大学医学部 3号館会議室

ACCEL (Attractive Conference on Collaborative and Elaborative Learning for Senior Residents)は、名古屋大学総合診療科が主催する家庭医療専門医試験の受験申請に必要なポर्टフォリオ(PF)の作成を支援するためのミーティングです。年4回開催。

今回は総勢23名の参加者でした。愛知県内から2名の専攻医の先生、岐阜県から1名の先生にはポर्टフォリオ持参でご参加いただきました。また当科の近藤先生より「プロフェッショナリズム」のコアレクチャーをしていただき、大変参考になりました。

#### 【次回案内】

2018年3月3日(土)13:00~16:00 名古屋大学医学部 3号館会議室

詳細を知りたい方や参加をご希望される方は、名古屋大学総合診療科 HP

<https://www.med.nagoya-u.ac.jp/general/accel/> もご参照ください。コアレクチャーの概要も参照いただけます。

すべての家庭医療専門医プログラムの専攻医、指導医のオープン参加を歓迎します。

またPC認定医の受験や更新、家庭医療専門医更新でPF作成が必要な方も是非ご参加ください。

詳細は下記アドレスにお気軽にご連絡ください。

連絡先:名古屋大学医学部附属病院総合診療科(担当:安藤友一)

E-mail:[u1ando@med.nagoya-u.ac.jp](mailto:u1ando@med.nagoya-u.ac.jp) Tel & Fax:052-744-2951



### ●三重県

#### 【報告】

##### 1)2017/11/19 ポートフォリオ発表会(三重大学家庭医療学後期研修プログラム)が開催されました。

三重大学家庭医療学後期研修プログラムでは毎年数回、レジデント主体のポर्टフォリオ発表会を行っています。レジデントが各研修施設で経験し練り上げたポर्टフォリオを、その場を借りて医局全体の先生たちと共有・吟味し、よりよい成長とポर्टフォリオ作成に繋げるのが目的です。

今回はレジデント1人につき3事例を用意し、半日かけて全事例をご指導いただきました。どの事例もレジデントが悩み、工夫し、多くの学びを得た事例ですが、改めて様々な切り口、大きな枠組みからご意見をいただき、レジデントはみな新しい視点や気づきを得ることができました。私が今回の発表会を通して気づいたことは、1年前の私が研修開始して初めての発表会に比べ、レジデントのレベルだけでなく、指導医のレベルも大きく向上しているということです。

私たちレジデントがポर्टフォリオから学びを得て成長するだけでなく、指導してくださる先生方も事例からの学びや指導を通して成長し、それがさらにレジデントの成長につながるという好循環ができていないかと思えます。そしてそれは、いま目の前にいる患者さんに、いつか私たちの前に現れる誰かのためになると確信しています。この発表会やレジデントからもっともったいい流れを作れるよう、これからも工夫を凝らして頑張っていこうと気持ちを新たに引き締めました。次は年度末に開催予定です。

三重大学家庭医療学後期研修プログラム 専攻医 小野亮佑



**2)2017/12/9 第 24 回ファイザーヘルス ケアリサーチフォーラムが開催されました。**

三重大学地域医療学講座の若林英樹先生が12月9日に開催されたファイザーヘルス ケアリサーチフォーラムの中で2015年度助成研究の成果を報告しました。

我が国では高齢化が進み在宅医療が推進されていますがその普及がなかなか進まないという問題を抱えています。在宅医療が実現するにはどのような要因があって、それらがどう関係しているかについての調査結果を発表しました。

同フォーラムで三重大学大学院医学系研究科大学院生(博士課程)の湯浅美鈴先生が、2017年度国内共同研究助成に採択され、授賞式がありました。エンドオブライフケアの選択について意思決定することは、患者さんやご家族にとって容易ではありません。その選択肢について在宅患者さんが理解しやすくするための支援ツールをテーマに研究します。



**3)2018/2/4 日三重県プライマリ・ケアエキスパートナース講演&シンポジウム(第3回地域医療フォーラム in 三重)が開催されました。**

2月3日、4日と三重県総合文化センターにおいて「日本在宅医学会 第3回地域フォーラム in 三重」が開催されました。次々と寒波が到来する中、奇跡的にこの2日間はお天気にも恵まれ約800名の方に参加していただきました。その中の一つのプログラムが「三重発!!プライマリ・ケアエキスパートナース～医療過疎地域を元気にする看護師～」で、日本看護協会副会長の秋山智哉先生による講演と5名のシンポジストによる在宅療養で活躍するプライマリ・ケアナースの育成をテーマにシンポジウムを行いました。

先生から「在宅療養を支えるジェネラリスト・エキスパートの力」をテーマとして、高度急性期から在宅まで幅広く学べる在籍出向による相互人事交流を推進した実績の紹介やジェネラリストを育成するための「マングローブ型キャリアパス」の話をしていただきました。シンポジウムでは、それぞれの立場からどのようなジェネラリスト・エキスパートの育成が必要か実情を踏まえて話をいただきました。約150名の参加があり、会の終了後も熱心にシンポジストの方と交流を深めていました。



**4) 感染症講義シリーズ(谷崎隆太郎先生)18:30～19:30 家庭医療学/総合診療科 医局**

2017年12月26日(火)第9回「知っておきたいワクチンのハナシ～予防に勝る治療なし！を実感する～」

2018年1月30日(火)第10回「発熱・皮疹の鑑別～感染症とは限らない～」

2018年2月27日(火)第11回「渡航医学の基本(Pre-travel)～知るは絶対得する、安全に渡航するためのTips～」

2018年3月27日(火)第12回「渡航医学の基本(Post-travel)～帰国後の発熱はマラリアからが基本！だが～」

**5)2017年12月21日(木)18:30-20:00 第17回プライマリ・ケア塾 場所:臨床第二講義室**

筑波大学医学医療系 教授 矢野晴美先生 講演 「抗菌薬耐性 AMR への戦略的対応—総合内科診療と多職種連携—」

**6)2018年2月3日(土)・4日(日)日本在宅医学会 第3回地域フォーラム in 三重 会場:三重県総合文化センター**

**7)2018年2月10日(土)第3回 IDT-MIE(多職種協働のチーム医療プログラム)**

時間:10時～16時 場所:鈴鹿医療科学大学(白子キャンパス) 対象:医・看・歯・薬・福祉・栄養・理学療法学科等に属する学生

**【予定】**

**2018年6月16日(土)～6月17日(日)第9回 日本プライマリ・ケア連合学会学術大会**

会場:三重県総合文化センター／MieMu(三重県総合博物館)

**●岐阜県**

**【報告】**

**1)第38回岐阜プライマリ・ケアカンファレンス**

日時:2018年2月16日(金)19:00～21:00 会場:岐阜グランドホテル

研修医による2症例の症例検討会

ミニレクチャー 岐阜市民病院血液腫瘍センター長 高橋 健先生

「チーム医療から見た血液内科」

特別講演 岐阜大学医学系研究科神経内科・老年学 吉倉 延亮先生

「日常診療における認知症への気づき～早期診断・早期治療に向けて～」

研修医が主体となってプライマリ・ケアを学ぶ研究会です。今回は研修医28名と指導医22名、計50名が参加しました。

**【予定】**

**1)第39回岐阜プライマリ・ケアカンファレンス 日時:2018年6月8日(金)19:00～21:20 会場:岐阜グランドホテル**

**2)Point-of-Care Ultrasound(POCUS)コース**

日時:2018年9月16日(日)13:00～17日(祝)13:00 場所:岐阜大学サテライトキャンパス(JR岐阜駅前)

救急医療や在宅医療などで、医師が短時間で診断するための超音波検査のハンズオンセミナーです。参加はホームページで公募します。



## ●静岡県

## 【報告】

## 第5回静岡プライマリ・ケアフォーラム

平成30年2月24日午後B-nest(静岡産学交流センター)にて、第5回静岡プライマリ・ケアフォーラム(平成29年度第2回日本プライマリ・ケア連合学会中部ブロック静岡県支部地方会)が開催されました。

一般演題(ポートフォリオ)として以下の3つの演題が発表され、それぞれ活発な質疑応答、意見交換が行われました。以下抄録。

## 演題(1)在宅における認知症患者と家族のケア、演者・所属:澤みどり(椋原総合病院薬剤部)

抄録:事例は81歳、女性。主たる介護者は同居の長女。認知症にて当院精神科通院歴有り、腰椎圧迫骨折にて当院に入院後、精神科医師の往診と訪問看護、訪問薬剤指導を開始した。当事例に介入するきっかけは、患者が当院入院中に医療相談員から訪問薬剤指導を提案されたことであった。介入当初、介護者の長女は理解力や薬剤管理状況が良好で生活環境も整っているように見え、介入の必要性をあまり感じていなかった。しかし介護者の想いを丁寧に傾聴することで、様々な問題点に気づき、医療者と介護者の間に信頼関係が生まれ、関わることへの意義を感じることができた症例である。

## 演題(2)防災をキーワードにした連携の試み、演者・所属:三枝智宏(浜松市国民健康保険佐久間病院)

抄録:国協協の、医療・介護を必要とする者が、安全に避難し、被災後も継続的に医療・介護を受けることができる体制を作るための事業に参加したので概要を紹介する。災害時における避難行動要支援者に対する支援策のひとつとして、同意者名簿が地域内機関へ開示され、個別計画の作成を期待されている。しかし、個別計画の作成が滞っている地域が多い。そこで地域の自主防災組織や行政と医療機関・介護機関が協働して個別計画を作成し、事前の準備を行おうという試みである。具体的には住民とコラボした防災まちあるきとハザードマップの作成、ケアマネ、保健師、看護師らによる災害時リスクアセスメントと個別計画の作成、地区内の防災運営マニュアルの作成を行った。健康福祉系の職種間連携に地域組織や行政との連携も加わり、地域包括ケアの実践に有用であった。

演題(3):グループホームへの訪問診療にてポリファーマシー対策を実践した事例、演者・所属原田高根<sup>1</sup>、北西史直<sup>1</sup>、牧信行<sup>2</sup>、(1)トータルファミリーケア北西医院、(2)静岡県立総合病院

抄録:新たに訪問診療を開始したグループホームにおいて大幅な処方見直しを行い、目立った有害事象なく処方数を減少させることができたため、本事例を共有したい。年度の交代と共に訪問診療を開始することとなった定員9名のGHにおいて、1年間で合計11名の入所者の訪問診療を行った。平均年齢は89歳(最低80歳~最高100歳)。男女比2:9。介入前は11名で70剤(1名あたり平均6.4剤;最低3剤~最高12剤)の薬剤が処方されていたが、最終的には54剤(1名あたり平均4.9剤;最低2剤~最高9剤)まで減薬することができ、1年間の観察期間中に減薬に伴うと考えられる有害事象は認めなかった。本邦では「問題のあるポリファーマシーは6種類以上」との考え方が比較的普及しており、今回の介入により平均処方数を6.4剤から4.9剤に減少させることができ、ポリファーマシーを概ね解消できたと考えられた。また、合計減薬数の約半分が初回診察時の処方機会であり、「転医」は減薬の大きなチャンスであると考えられた。以下省略

一般演題(ポートフォリオ)の後は、矢吹拓先生(国立病院機構 栃木医療センター 内科医長)講師にお招きして、ワークショップ:「ポリファーマシーを考える~明日からの処方最適化を目指して~」、講演:「栃木医療センターのポリファーマシー外来」を行いました。

ワークショップでは、11種類の内服薬を処方されている症例のグループ検討から始まり、今話題のポリファーマシーの概要、アクションプラン作成のグループワークとその共有を行いました。

講演では、「栃木医療センターにおけるポリファーマシー外来」について、30分の短い時間でしたがお話いただきました。

全体を通して、ポリファーマシーは確かに、害になるかもしれない、医療費も増えるかもしれない、服用も大変かもしれないが、その対策として、単に薬剤を減らす、適正化することだけが目的ではなく、多剤になっている症例に着目し、多職種が共有・協働し、エビデンス、患者さんの想いを踏まえつつ、時には家族や地域のヘルスケアシステムにアプローチすることであることがよくわかりました。

最後の地方会会員総会、会員交流会は時間がありませんでしたが、その後の懇親会につなげました。

28名の参加者(医師18名、薬剤師4名、看護師2名、事務職2名、)で、懇親会も矢吹先生も加わり参加者14名の楽しい会となりました。この場をお借りして、矢吹拓先生、口演をいただいた先生方、支部役員、当院スタッフ、参加者の皆様に感謝いたします。



文責 北西史直

## 各地の活動

## 静岡家庭医養成プログラム

家庭医療臨床実習指導の新アプローチ~ EPA(Entrustable Professional Activities)入門~

日時:2018年2月3日(土)9:00~12:00、場所:掛川グランドホテル(部屋:ブルームーン)

講師:Eric Skye 先生, Mike Fetters 先生

## 【予定】

## 静岡家庭医養成プログラム

第9回家庭医療学学生ワークショップ「家で最期を迎えたい~広がる在宅医療の現場で~」

日時:2018年3月10日(土)14:00~17:30、場所:クリエイト浜松特別会議室 静岡県立総合病院

第14回慢性期医療を考える会『肺炎の予防と治療 ~肺炎診療ガイドライン2017を中心に~』

演者:独立行政法人国立病院機構三重病院 呼吸器内科 丸山 貴也 先生他一般演題

日時:2018年3月16日(金)19:00~20:45、場所:もくせい会館1階 富士ホール

## 静岡県支部の皆様へ

静岡県支部の連絡はすべてメールで行っております。今まで一度も連絡が来ない、最近来なくなったという会員の皆様はメール登録がされていない可能性があります。学会本部事務局および北西(frisko アットマーク wnode.ocr.ne.jp)までメール登録をお願いします。

今年度末で、静岡県支部の役員の任期が終了します。静岡県支部、静岡地方会にご協力いただける方は、お申し出ください。大歓迎です。

## ●石川県

## 【報告】

## 能登地域総合診療強化研究会 平成 29 年度クリニカルラウンド

・第 7 回 テーマ『その患者さん急変ですよ！五感で判定するバイタルサイン』

講師：公立穴水総合病院 小浦 友行 先生 日時：平成 29 年 11 月 22 日(水)19:00～20:00

場所：市立輪島病院 2 階会議室 参加者 27 名

・第 8 回 テーマ『膠原病内科医から見た「不明熱」診療』

講師：珠洲市総合病院 西岡 亮 先生 日時：平成 29 年 12 月 13 日(水)19:00～20:00

場所：珠洲市総合病院 2 階会議室 参加者 35 名

## 【予定】

今年度のクリニカルラウンド全 8 回が終了。来年度も継続して行う予定。



## ●富山県

## 【報告】

1) 2017 年 12 月 8 日 特別講演会 亀田での家庭医療 講師：岡田 唯男 先生（亀田ファミリークリニック館山）

亀田ファミリークリニック館山を立ち上げられた経緯、運営や教育の実際について、また家庭医療分野における研究面についても貴重なお話をいただいた。

2) 2017 年 12 月 9 日 とやま NANTO-RENKEI 総合診療医養成プログラム ポートフォリオ発表会

会場：富山市まちなか総合ケアセンター

講師：岡田 唯男 先生（亀田ファミリークリニック館山）

専攻医のポートフォリオ発表をポスター形式・口頭発表形式の両方で行った。岡田先生に「ポートフォリオ作成の Tips」と題して、ポートフォリオ作成の実際・指導法につきご教授いただいた。富山県内だけでなく、新潟、石川、福井、長野からの参加者もあり、近隣の病院・プログラム同士の交流を深める機会となった。

3) 国際教育セミナー 植村健司先生講演会 会場：富山大学杉谷キャンパス

日程・演題：2017 年 12 月 13 日（水）「臨床留学について」、

14 日（木）「米国の老年医学と緩和医療」

講師：植村健司先生（マウントサイナイ病院（New York）老年病・緩和ケア科フェロー）

富山大学出身の植村先生に上記テーマでご講演頂いた。臨床留学に興味をもつ学生・研修医の参加があった。



## 【予定】

1) 平成 29 年度 第 4 回 とやまいびー（とやま多職種連携教育プロジェクト）

2018 年 3 月 11 日（日）会場：富山市まちなか総合ケアセンター

2) とやま NANTO-RENKEI 総合診療医養成プログラム ポートフォリオ発表会

2018 年 5 月を予定（詳細はお問い合わせください） 会場：富山市まちなか総合ケアセンター

## ●福井県

## 【報告】

1) 平成 29 年度第 2 回 福井県家庭医療ポートフォリオ発表会

日程：2018 年 1 月 6 日（土）17:15～20:00 会場：福井大学病院白翁会ホール

ゲスト：藤沼康樹先生（医療福祉生協連家庭医療学開発センター長）

福井県内の専攻医 6 名より発表いただきました。今回は藤沼康樹先生をゲストとしてお迎えしたこともあり、福井県内の学生や先生方のみならず、石川・富山の先生方、遠くは宮城からも参加いただきました。専攻医それぞれにフロアから多くのコメントをいただき、最後に藤沼先生から今後に繋がるコメントをいただきました。専攻医はじめ指導医もポートフォリオの醍醐味を感じられるひとときでした。

2) 藤沼 FD in ふくい

日程：2018 年 1 月 7 日（日）8:30～12:30 会場：福井大学病院白翁会ホール

講師：藤沼康樹先生（医療福祉生協連家庭医療学開発センター長）

前日は主として専攻医対象でしたが、2 日目は指導医対象に、上記タイトルで勉強会を開催しました。学生・専攻医へのポートフォリオをはじめとした家庭医療の指導法、家庭医療指導医の生涯教育法など、先生が実践されている方法をご紹介します。個人・組織の成長に繋げていこうと誓った、これまたあっという間の 4 時間でした。

## 【予定】

1) 平成 30 年度第 1 回 福井県家庭医療ポートフォリオ発表会

日程：2018 年 6 月 10 日（日）会場：福井大学病院白翁会ホール



## &lt; 支部運営についての情報 &gt;

・各県の代表窓口は以下の方々です…三重県：竹村洋典、富山県：山城清二、石川県：吉岡哲也、岐阜県：森田浩之、愛知県：伴信太郎、福井県：林寛之、静岡県：北西史直

・プログラム責任者の会中部ブロック代表：大杉泰弘（藤田保健衛生大学総合診療・家庭医療プログラム）

・中部ブロックの活動に関するご意見等ありましたら下記までご連絡ください。

木村 悦子（中部ブロック支部事務局） e-kimura(at)med.nagoya-u.ac.jp